

2023年6月4日撮影

# 光といのち

第147号  
2024年5月25日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

メール info@syozenji.or.jp

URL http://syozenji.or.jp

住職 釋孝昌（井上孝昌）

## ちがいの 差異を認める 世界の発見

zoom配信します。メールで申込みください。

### 勝善寺聞法会

6月9日（日） 13:30~16:30

講師 副住職 井上泰之 講題 「答え合わせ」

どうぞ奮って、ご聴聞ください。

毎日報道されるパレスチナやウクライナなどの惨状に鈍感になった自分に呆れています。八十年前の日本もこれと同じ状況でした。これからも条件がそろえば戦争をする。だからこれは対岸の火事ではありません。「憲法」前文に「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するものであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」とあります。この精神をイデオロギーとして育てられ、今もそれを「正義」として世界を見ている。と思った時、フツと題字下の言葉が思い浮かびました。

これは、一九九八年の蓮如上

人五百回御遠忌法要に向けて、真宗大谷派がテーマとした「バラバラでいっしょ」の副題です。「バラバラでいっしょ」は、専制や独裁に隷従すること、「いっしょ」になるでも、民主的に互いに妥協し権利を認め合って「いっしょ」になることでもありますまい。「差異を認める世界の発見」があつてのみ成り立つ。その世界を仏教では、「浄土」と言います。この語は死後の世界をイメージしますが、「無色透明の鏡」、自分では見えない心の奥底にある根性を映し出す鏡と言つてもいいでしょう。

無意識に自分を「正義」として他人を裁いている根性。その根性に執着し、「隷従するか」「さもなければ抹殺する」と相手に迫る愚かな自分が映る鏡です。

この鏡に向かう生活が「願生浄土の道」（『宗憲』見開き参照）、それが私たちの聞法生活です。この教えだけが、宗教・イデオロギー・国家・民族の差異を超えられる道。「バラバラでいっしょ」が成り立つ教えです。

## 仏教って何？

## 浄土真宗ってどんな

## 教え？

これが、はっきりのしていなかった。

池田勇諦先生のご法話（この紙面）で、それが明確になり、それを確かめる仏教聴聞を今も続けている。

それまで私は、仏教を現世利益（欲望の実現）や慰霊鎮魂（死者の追善供養）の呪術（じゆじゆつ）と思い込み、また仏教・キリスト教・イスラム教を並列に見ていました。あるいは、真宗大谷派『宗憲』前文にある「阿弥陀如来の本願名号（南無阿弥陀仏）を行信する願生浄土の道（浄土真宗）が、人類平等の救いを全うする普遍の大道である」との文に「我が宗門は、ずいぶん高慢で我田引水だ」と批判的でした。仏教を聴聞して、わかっていたいなかったことが、わかった。「**仏教**」「**浄土真宗**」、**これがはっきりしたら。人生が変わる。** どう変わるのか？

料理は食べたら、美味しさがわかる。

仏教は聴聞したら、それがわかる。

私はかねて三つの願いを持っておりまして、一つは仏教徒としてインドの仏跡を巡拝したい。二つ日は日本にもご縁の深い世界宗教の一方の雄、キリスト教の聖地を訪れたい。まずローマのバチカンに詣でたいこと。三つ目は二十世紀が戦争の世紀と言われ、その爪跡と言え、何といてもわが国の広島・長崎の原爆投下跡を挙げずにいられませんが、外に眼を向けたとき、その最たるものとしてポーランド共和国のアウシュヴィッツ強制収容所跡を訪ねたいことでした。おかげさまでご縁が熟し順次訪れることができましたが、いまその中のカトリックの総本山であるバチカンに詣でた時のことを想起するのです。

バチカンのサンピエトロ大聖堂の前に立った時には、そのスケールの大きさ威容に圧倒されました。中へ入るとイエスの十字架の像が中心に安置されていました。そこで私たちは合掌念仏、礼拝をさせていただきました。念仏申しておりました時に、フツと私の中に思い起こされてきたのが、実は、今の『正像末和讃』の一首だったのです。「九十五種世をけがす 唯仏一道きよくます 菩提に突出してのみぞ 火宅の利益は自然なる」ということは、世界宗教の一

方の雄であるキリスト教も九十五種の内なのか、外なのかということ。大変乱暴な言い方ですけれども。そんなことが自分に思えてきました。「九十五種世を汚す 唯仏一道きよくます」と。「きよくます」道、人間を涅槃に方向付けるものはただ仏道の一つだということです。だから唯仏一道の他は全部九十五種です。このお言葉からすると、私どもが仏教徒というご縁をいただいているということから、九十五種の中にキリスト教も入るといいのでしょうか。そのことがフツと思えてきました。ヨーロッパの文化は世界の文明といってもよく、その文化の根底となり、ここまで育ててきたものはキリスト教の持つ文化力であると強く思えます。それだけにキリスト教には一つの真理が流れていると言えましょう。「唯仏一道きよくます」だから、そのキリスト教を仏道以外のものとして九十五種の邪道の中へ組み入れて良いのか否かと考え込んでしまいました。皆さん方どうでしょう。か。あまりにも疑問が大き過ぎる。自分の中に思えてきたことが自分でもどう受け取っていいのか手に負えないといった感じになったことを今も思いかえします。

その後に参加した人と一緒に話し合いの

時間を持ちました。私はやはり唯仏一道以外は邪道であるといわねばならないと思いに到りました。キリスト教も九十五種の中に入る。けれども私がそう言わせていただくときに「唯仏一道きよくます」といった時、私たちは証大涅槃の真実道にご縁をいただいているから正しいのだと無意識のうちになっっていないかということ。そうならば、すでにそれは九十五種に私自身が転落しているのではないか。唯仏一道をも九十五種の中に組み込んでしまう、そのような私たちの受けとめ方が強く問い返されてきたのです。

キリスト教は天国に生まれるという、ならばそれは幸福教です。幸福教であるならば九十五種の中身です。私はこのことをハッキリさせておかなければならないと思います。しかし、「私たちは唯仏一道を聞いているのだから」と言っている、私たちの仏教の受け止め方がいつの間にか幸福教になっではないか。お念仏を聞かせてもらうと幸福になれるのでないか。仏法を聞かせてもらおうと幸せになるのではなからうか。いつの間にか仏教をも幸福教に変質化させている私たちです。「唯仏一道きよくます」とは、人間を涅槃の一点に方向づける仏陀

の真実の教えです。つまり人間を完全燃焼せしめる真実教です。そういう教えに遇いながら、無意識のうちに私たちは真実教をも幸福教にすり替えてしまつて、仏教を聞いているつもりになっていないか。

仏教が私たちの上に生きていくということとはどういうことか。仏の感覚と発想が私たちの上にはたらいいていく時に仏教が生きてはたらくと言えるのです。仏教を聞いているから仏教だというわけにはいかない。人間が求めているものは幸福です。だから、幸福教というのは凡夫の感覚と発想です。そこでお念仏が受けとめられているのなら、仏法という名の世法を聞いているだけです。それは厳しいところです。そういう自己批判をいただく、本当に幸福教である限りは、何であれ九十五種のうちです。いまキリスト教も九十五種だと言いましたけれども、我々もまた仏教を九十五種のうちに入れ込んでしまつていけるのではないか、そういう自己批判がそこに強く動きます。その意味で「九十五種世をけがす」を受けとめたいことです。そのもとは『涅槃経』の仏陀のお言葉ですが、それを善導がこういう形で自らの確信として書かれているだけに深く留意すべきに思います。

九十五種という幸福教は、この世のすべてのことが人間の幸せを追い求める手段として設けられている。政治・経済・教育・文化、全部がそうです。だからみな九十五種の中へ入る。仏教だけは入らないと思つているのは自己批判の欠落した私たちの傲慢なあり方なのです。確かに教えとして唯仏一道は九十五種の外です。けれども仏道をも九十五種の内に変質化させているという自覚を通さないかぎり「唯仏一道きよくます」が真に成り立たない。それが無いとお念仏の担ぎ屋にすぎなくなつてしまつてしよう。

(真宗大谷派東京教区聖典学習会講義録  
『教行信証』に学ぶ 二)より)

※親鸞聖人は『教行信証』(『真宗聖典』初版251ページ第二版285ページ)に次のように引用しています。

『涅槃経』に言わく、世尊常に説きたまわく、「一切の外は九十五種を学びて、みな悪道に趣くと。已上  
光明師(善導)の云わく、九十五種みな世を汚す、ただ仏の一道、独り清閑なり、と。已上」



増田 一之氏



ありがとうございます。

増田一之氏「パイプ椅子、要りますか?」。住職・坊守「はい」。増田氏「いくつ必要ですか?」。住職・坊守「全部」。ということ、20脚いただきました。傷んでいた座面を何枚も張り替えてくださいました。

氏の御尊父故増田征夫氏から5脚、足達 崇 氏からは60脚いただいた椅子がありますから、正座が辛くて報恩講などの法要や聞法会に来られなかった方も、これで大丈夫です。

県道沿いの掲示板の前が、鉢植えの花で飾られていました。仏法を莊嚴する仏花です。

週に一度「時間がたっぷりありますから」と墓地の掃除をしてくださる方、伐採した樹木の遣り場に困っていると、処理を手配してくれた方もいらっしやいました。私が知らないところで、寺のことを気に掛けてくださっている方もきつと多いことでしょう。

こうしてお気持ちで、親鸞聖人の歩んだ浄土真宗を伝える寺、ご門徒の聞法道場が、護持されてまいりました。

世話人交代

中佐久間(谷)は、昨年の暮れに鈴木 渉氏がご逝去されましたので、伊藤 照代氏にお願いしました。

平群(荒川)は、高梨 和夫氏のお申し出により高梨 剛氏にお願いしました。どうぞ宜しくお願いします。

墓誌を新造

合祀墓の墓誌が一杯になりましたので、後ろに造りました。

亡き人を礼拝し、阿弥陀(永遠の「いのち」)に遇う。南無阿弥陀仏



ご予約ください

月曜日朝のお勤め 毎週6時〜

6月9日 8時30分〜奉仕作業

13時30分〜勝善寺聞法会

6月10日9時〜 八日講十日講

7月21日13時30分〜

仏教を聞き語り合う会

8月10日10時〜

孟蘭盆会